第６号 平成２２年８月発行
編集：海津西浜知内地域文化的景観まちづくり協議会

重要文化的景観に指定された地域の 整備計画を策定する 委員会の組織化を決定

海津・西浜・知内地域文化的景観協議会では、去る七月二二日に、市の教育委員会文化財課の方も同席して頂き、役員会を開催しました。

主要な議題は、今後、重要文化的景観として選定された事を地域のステータスとして、まちづくりを進めていくためには、市の協力を得ながら一定の整備計画を策定し、それに基づいて継続的な活動を展開していく必要があるのではないか、ということについてでした。

協議の結果、本協議会の委員から、策定委員会のメンバーを選定し、今後大学の先生など専門家も迎えて、策定委員を発足する運びとなりました。

策定委員会のメンバーは、以下の通りに決定しました。（順不同）

小多　明（本協議会会長）
鳥居　庄市（本協議会副会長・知内浜オートキャンプ場支配人）
竹脇　一美（本協議会副会長）
辻　久一（本協議会役員・海津漁業組合長）
島田　浅司（本協議会役員・西浜区長）
本田　明（本協議会役員・建築関係）

もう一人、商工業関係者をメンバーに参加を要請し、計七人で構成することとなりました。

今後は、大学の先生や高島市教育委員会文化財課と協力して、地域の良さを生かし、地域の活性化にも寄与する整備計画を策定できるよう、努力してまいります。

なお、全て地域のみなさんあってのことですので、色々な機会をとらえて、お知り合いの委員に、様々なご意見を頂ければ幸いです。

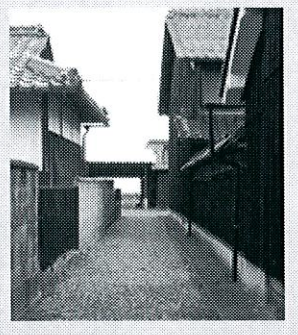
また、財政基盤のない本協議会に、各区から活動のための補助金を拠出をお願いし、各区長より前向きに検討していただける事になりました。

よろしくお願い致します。

海津 西浜 知内
三十六景 其の6

づし　ひかる湖面と町の構造と

「づし」を通して
まばゆく光る湖面がみえる
海津が港町であることが
一瞬でわかる瞬間である。
日本に古い町並みは数多い。
しかし、このような光景を残す
古い町並みは他にない。
港町のほとんどが近代に更新され、
コンクリートの港と町とに
分かれてしまったからだ。



そして、二三軒毎に数多くある
「づし」という路地は、
みんなが琵琶湖という
自然の恵みを利用し
かつ、みんなで利用しやすいよう
町の構造を作り出した、
海津の人々の知恵の現われだ。